

第44回 大阪の医療と福祉を考える公開討論会

「かかりつけ医」は健康管理のパートナー 若い世代にも大切

第44回「大阪の医療と福祉を考える公開討論会」を令和6年2月11日午後開催しました。今回は、「かかりつけ医ってなに？——あなたや家族の健康、誰と守る？」と題して、YouTubeでライブ配信しました。

司会はMBSアナウンサーの三ツ廣政輝氏、コメンテーターは大平真司理事が務め、はじめに、茂松茂人・日本医師会副会長（大阪府医師会理事）が「かかりつけ医とかかりつけ医機能」について話題を提供。その後、阪本栄副会長とタレントのゆめぽて（川端結愛）さんが、対話形式で「かかりつけ医」を深掘りしました。



◆かかりつけ医とかかりつけ医機能——茂松茂人・日医副会長



まず、かかりつけ医は、患者自身が選ぶものとし、診療科を問わず、信頼できる医師を見つけてほしいと促しました。また、自身は整形外科の開業医であり、地域ネットワークの中で多職種と連携しながら、かかりつけ医として取り組んでいると語りました。能登半島地震では、日医の要請に応じて、全国のかかりつけ医らがJMA T（日医災害医療チーム）として被災地に入ったと報告。「災害発生時の支援活動も医師会、かかりつけ医の仕事」と説明しました。

かかりつけ医機能については、「日医・四病院団体協議会合同提言（平成25年）」での定義を示し、地域において「面」として支えることが重要と強調。あわせて、医師も研鑽する必要があるとの考えを示しました。

◆対話形式で展開——阪本栄・大阪府医師会副会長 と ゆめぽて（川端結愛）さん



ゆめぽてさんは、若者の代表として「かかりつけ医」に関する様々な疑問を問いかけ、阪本副会長が答えました。

「漠然とかかりつけ医はイメージできるが、どれほどの方がかかりつけ医を持っているのか」という問いに、阪本副会長は府医で実施したインターネット調査を基に説明。70歳代では80%以上であったのに対し、20歳代では39%との結果を示しました。

また、ゆめぽてさんは、かかりつけ医を持っていない理由として多かった「健康なので必要ない」との回答に理解を示す一方、自身が食中毒で医療機関にかかった時のエピソードを交え、医療への感謝を伝えました。阪本副会長は、「日本の医療制度は世界的に見ても優れている」と語り、かかりつけ医を患者自身が選択できる環境にあり、国民皆保険制度とともに守っていかねばならないと諭しました。

その後、パネリスト3人で討論が繰り広げられました。「若い世代でもかかりつけ医は必要か」「かかりつけ医のを見つけ方が分からない」——などの悩みに、それぞれの立場で意見やアドバイスが述べられました。ゆめぽてさんは、本討論会を通じてかかりつけ医の大切さが理解できたとし、同世代の友人らにも伝えていきたいと語りました。